

山陽小野田市立山口東京理科大学学長候補者推薦理由書

学長候補者 氏名（自署） 武田 健
代表推薦人 所属 薬学部 薬学科
氏名（自署） 和田 光弘

さて、この度、望月正隆学長の任期満了を受けて山口東京理科大学では次期学長候補者を公募されておりますが、現在、山口東京理科大学薬学部 学部長であります武田 健氏を次期学長候補として推薦いたします。

武田 健氏は、昭和 44 年に東京大学薬学部卒業後、同大学院薬学系研究科博士課程に進学され博士号（薬博）を取得されています。その後、昭和大学、ニューヨーク州立癌研究所で研究・教育に従事し、平成 7 年東京理科大学薬学部教授に就任され、薬学部長、薬学研究科長（平成 12-18 年）の他、大学法人理事（平成 14-17 年）および副学長（平成 23-24 年）を務められております。本学には平成 29 年から山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部設置準備室教授として赴任され、望月正隆学長と共に薬学部設置で中心的な役割を果たされています。薬学部開設から現在までは、薬学部教授として研究・教育・大学運営に尽力されながら薬学部長（平成 30 年-現在）として学部を率いられ、副学長（令和 2 年-現在）として大学運営に携わってこられました。それぞれの所属で重要ポストを務められている事実は武田氏の人格が高潔であり、大学運営に関する非常に高い経験と識見を有する査証であり、その経験から副理事長として理事長を補佐し、理事会と良好な協力関係を構築しながら務めを果たすことができる人物であるといえます。

武田氏が学長候補として掲げる山陽小野田市立山口東京理科大学が永続的に発展するための方針は、副学長として池北理事長・望月学長らと推し進めてきた事業を継承しつつ、教学改革、研究の活性化および社会・産業連携に関して掲げた目標の達成を強く推し進めることです。その実現には、率いる人物が本学の建学の精神を真に理解し、教職員にビジョンを浸透させるためのコミュニケーション能力、実現するための決断力及び実行力並びに強いリーダーシップを有しなければ達成できないものであります。武田氏がこれらを必ずやり遂げる根拠として、氏が東京理科大学で学部長を務められた時期は、薬学教育が 4 年制から 6 年制への大きな変革がなされた時期であります。大変な困難が伴うこの変革を、氏は、学部をまとめ上げ、東京理科大学で 6 年制カリキュラムを導入したという実績があります。さらに東京理科大学副学長時代の大学広報に携われ

た経験や、医療系の新学科設置の答申をまとめられた経験は山口東京理科大学のブランドおよび将来のビジョン確立に有効であります。

武田氏は、研究では衛生化学分野において国際的に著名な研究者であります。また多くの研究成果を発表されていますが、その中でも環境中の超微小（ナノ）粒子が生体へ与える影響の研究を世界に先駆けて着手され、高いインパクトを与える論文を報告されています（査読付き英文論文 163 報、Scopus 2023.10.18）。これらの成果として平成 22 年に日本薬学会学術貢献賞を受賞されています。さらに、これらの研究に伴い、学術振興会科学研究費をはじめ、厚生労働省科研費など多くの大型研究費を取得されています。これらの受賞や研究費獲得については、研究テーマが優れているだけでなく、社会への情報発信が非常に重要となるものであり、武田氏は学識に優れ、国内外への発信力を有していることがいえます。

一方、社会貢献活動については、日本学術会議連携会員（平成 19～平成 25 年）を務めてられています。また武田氏の研究の専門性が高く評価され、厚生省国立医薬品食品衛生研究所「ダイオキシン等内分泌攪乱環境汚染物質のヒト及び生態系に対するリスク評価に関する研究」委員、文部科学省ナノテクノロジー影響の他領域専門家パネル・パネル会議委員など幅広い官庁の委員を歴任されています。

教育面に関しても NPO 法人薬学共用試験センター副理事長、同財務委員および薬学教育改革大学人会議学士力検討委員会委員長を務められています。本邦の薬学 6 年制教育の変換、およびその導入に全国の薬系大学を指導する立場で尽力されています。

上記の武田氏の経歴は高潔な人格、公平性およびガバナンスに沿った厳格な実務活動能力を示しており、本学の教育・研究・社会貢献活動のうち 1 つに偏ることなく、適切なバランス感覚をもって目標を掲げ実現に向けて組織運営できる能力を有しているといえます。

一方、薬学部は今年度、6 年目を迎え、薬学共用試験、実務実習などを行ってきました。各イベントの初実施の困難さに加え、新型コロナウイルスの感染流行など未知なる困難を経験しましたが、武田学部長のリーダーシップのもと、適切な学部での組織編成がなされ、教員一丸となり、成功にこぎつけることができています。加えて令和 6 年度から新モデル・コア・カリキュラムの導入が控えており、いち早く武田学部長の号令の下、大学の運営方針に沿った適切なカリキュラムの編成が準備されています。

武田氏は今後、東京理科大学との連携維持・強化も目標とされており、現在実施されている薬学部における合同 FD 研修だけでなく、研究交流も考えられています。これらを実施していく上でも、武田氏以上の経歴・経験・人脈を有する人物はないと確信しています。

以上、本学の学長選考基準および学長選考会議としての学長の理想像に照らし合わせても、全てにおいてトップリーダーに相応しい人物であり、ここに武田 健氏を次期学長候補者として強く推薦申し上げます。